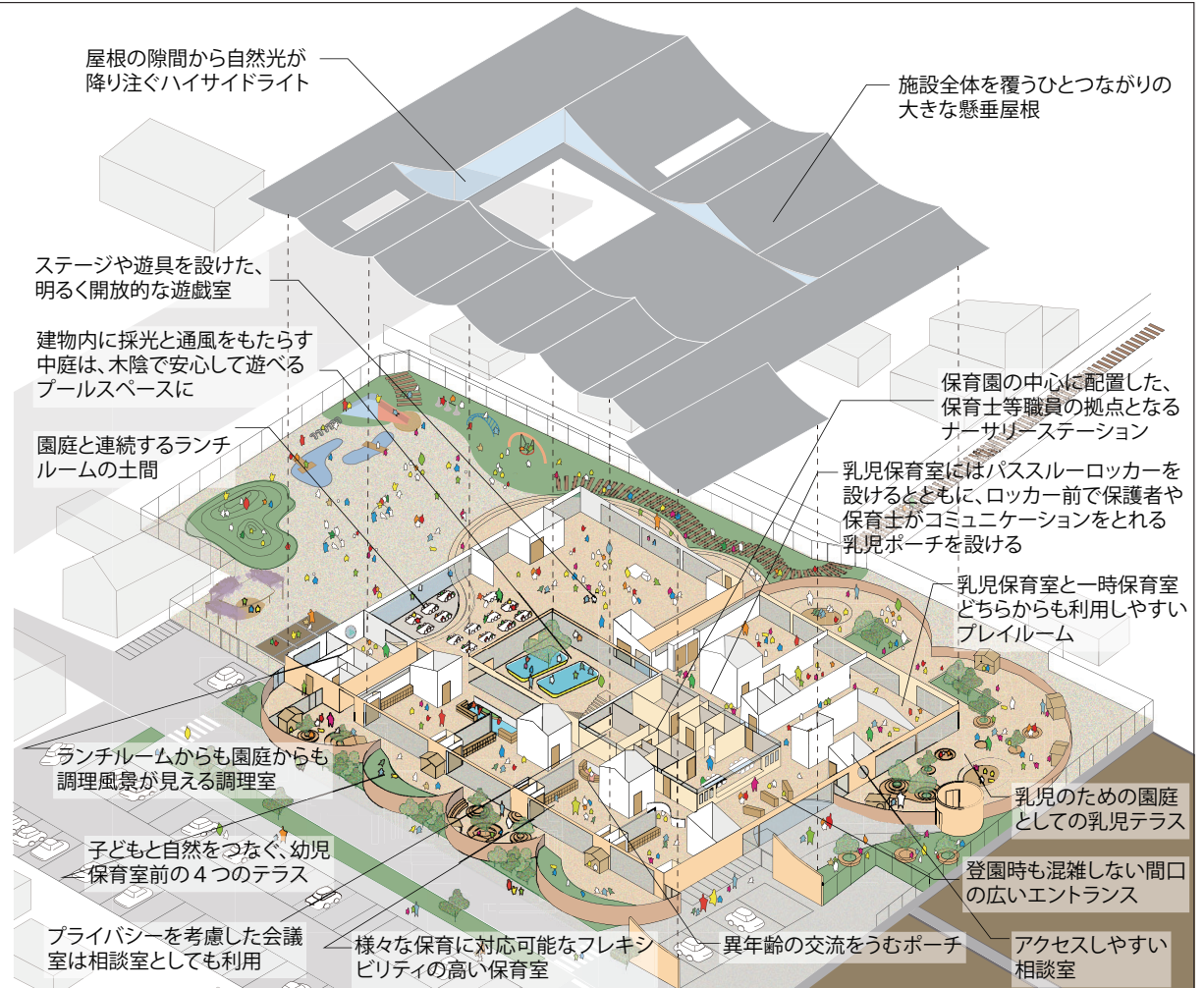




やわらかく子どもたちを包み込む保育園 ～子どもの居場所がつくる新しい街の風景～

子どもの安全と職員の働きやすさを第一に、好奇心を高める工夫と、安心して過ごせる大小様々な空間を施設中に散りばめました。大きな懸垂屋根と半円形ポーチが子どもを包み込み、ナーサリーステーションと井戸端ひろばが保護者を出迎え、リズムを刻む塀と緑が街の風景に届け込みます。ハードとソフト両面で地域に開いた、間々田の子育てプラットフォームが誕生します。

エントランスアプローチから望む保育園全景

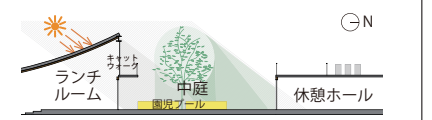


日差しと視線を遮り、プール遊びができる中庭



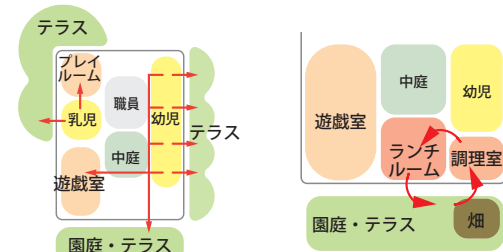
中庭のプール遊びをキャットウォークから参観

建物中央の中庭は、室内に自然採光と通風をもたらす役目を果たします。落葉広葉樹のシンボルツリー（カツラなど）を植えれば、室内から四季の変化を感じられます。夏季は中庭の木陰で、強い日差しと敷地外からの視線を遮りながら、安心してプール遊びができ、キャットウォークから見下ろせます。



成長に合わせた遊戯室と園庭

乳児（0～1歳）専用と幼児（2～5歳）は身体の成長が大きく異なり、それぞれに合わせた生活や遊びの場が必要です。幼児用の遊戯室と園庭は南側にまとめました。0, 1歳児の保育室に隣接して乳児用のプレイルーム、外には乳児が使うテラスをつくります。



成長に合わせたゾーニング

食育を促すループ

明るい園庭横ランチルームやテラスで給食

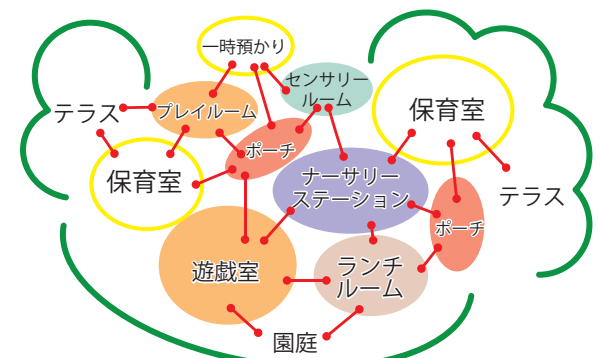
ランチルームは園庭に大きく窓を開け放つことができる明るく気持ちのいい空間です。天気の良い日はテラスに出て給食を食べられます。お昼以外もお絵描きや工作の場所として使えます。



食育を促すランチルーム、調理室、菜園

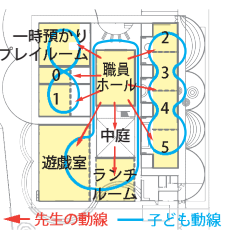
01 「子どもの時間」を一人ひとりが過ごせる、生活と遊びの場をつくります

多様な過ごし方ができる大小の空間が内外にひとり遊び、共同遊びが自由にえらべる多様な場所をつくり、子ども一人ひとりが主体的に自分の時間を過ごせる保育園を目指します。大きな園庭、テラス、ポーチ、センサリールームや遊戯室など、保育室内外に大小様々な空間を散りばめました。それぞれの場所が数珠つなぎになることで、子どもが多様な過ごし方を自ら見つけられます。



コリドーは回遊する遊び場、かつ見守り動線

園舎中央を貫くコリドー（廊下）は、建物の骨格。保育士等の職員にとって、子どもの安全を見守りやすい機能的な動線です。回遊できるコリドーは、子どもにはエンドレスな遊び場になります。

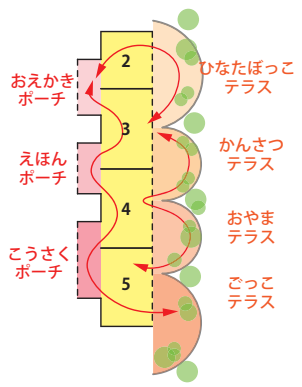


ポーチとテラスで年齢別の保育室を横断

年齢ごとの保育室は、保育士の目が届きやすい単位空間です。一方、異年齢との多様なつながりは、子どもの発達や成長を促します。年齢の枠を超えたコーナー保育ができるように、各保育室を横断するポーチとテラスを設けました。

保育室ひと続きのテラス、自然を肌で感じる

異年齢が屋外でも交わるよう、隣同士の保育室を横断する半円形のテラスを設けます。「おやまテラス」「かんさつテラス」「ごっこテラス」「ひなたぼっこテラス」と名付け、屋外ならではの遊び場にします。虫捕りや植物の栽培、小屋を使ったごっこ遊び、斜面に登って日向ぼっこ。保育室と連続する屋外空間があることで、自然との接点が増え、外の空気や開放感、天気、季節の移り変わりを身近に感じられます。



遊びを「やりかけ」のまま放置できるポーチ

コリドー（廊下）と保育室のあいだに、異年齢の保育室をつなぐポーチをつくり、「えほんポーチ」「こうさくポーチ」と名付けました。ここでは、やりかけのまま遊びを放置できる場所です。途中の絵や工作をそのままにして、翌日以降に再開し、その続きを取り組むことができます。大勢が多目的に使う保育室で大きな作品をつくることは難しいですが、このポーチはそんなやりかけが許される場所です。



ナーサリーステーションから見守るおえかきポーチ



4・5歳保育室をつなぐおやまテラス



02 地域に開かれた子育て支援施設 子育てのプラットフォームとして地域に開いた温かな施設をつくります

地域に段階的に開放できる配置計画

三方からアクセスできる敷地の特性を生かした配置計画とします。セキュリティラインを段階的に変えれば、園庭、遊戯室、ランチルームや厨房を地域に開放できるようになります。休園日には南側にある園庭を公園として開放し、地域のお祭り、子育て支援イベントでは園庭、遊戯室、厨房まで貸し出すことを提案します。普段の保育園が、地域の高齢者など多世代が交流できる場、みんなで子どもを見守り育てる場へと変わります。

保護者が交流しやすい子育て支援エリア

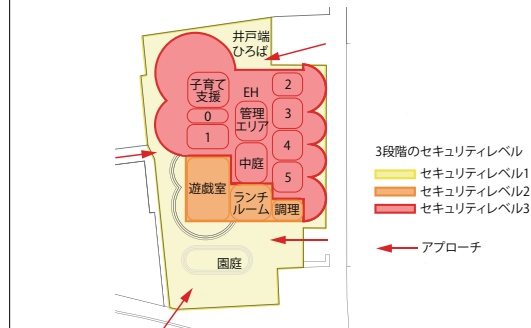
エントランス付近に、一時保育室や相談室、プレイルームや乳児用テラスを配置しました。玄関前には子どもの飛び出し防止を兼ねて緑で囲った井戸端広場をつくります。子育て支援エリアをエントランス付近にまとめ、子育てに励む保護者が安心して交流できるようにします。

地域みんなで育てる四季彩る散歩道

西側へ抜ける道は、災害時は避難経路、日常は散歩道に。近隣住民と一緒に草花を育て交流し、地域で子どもを見守るきっかけをつくります。

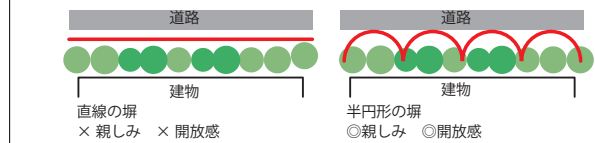
明快な避難と周辺環境を考慮した配置計画

建物を敷地中央に配置し、四周に外部空間を設け、周辺住民への圧迫感を緩和し、日影、視線、電波障害等に配慮します。災害時は、北側の玄関アプローチだけでなく、南側の園庭、西側の散歩道からも避難できる計画とします。ひと目でわかる回廊動線に加え、各保育室からは直接テラスに出られ、建物内のどこからでも容易に2方向に逃げる事ができます。



確実な安全策と境界の緑、環境と景観に調和

侵入防止のフェンスと目隠しも兼ねた塀を組み合わせて、確実なセキュリティラインを形成します。閉鎖的にならないよう、塀は親しみやすい半円形に。塀の内外に植える樹木が閉塞感を和らげ、周辺環境と景観に調和した外観になります。

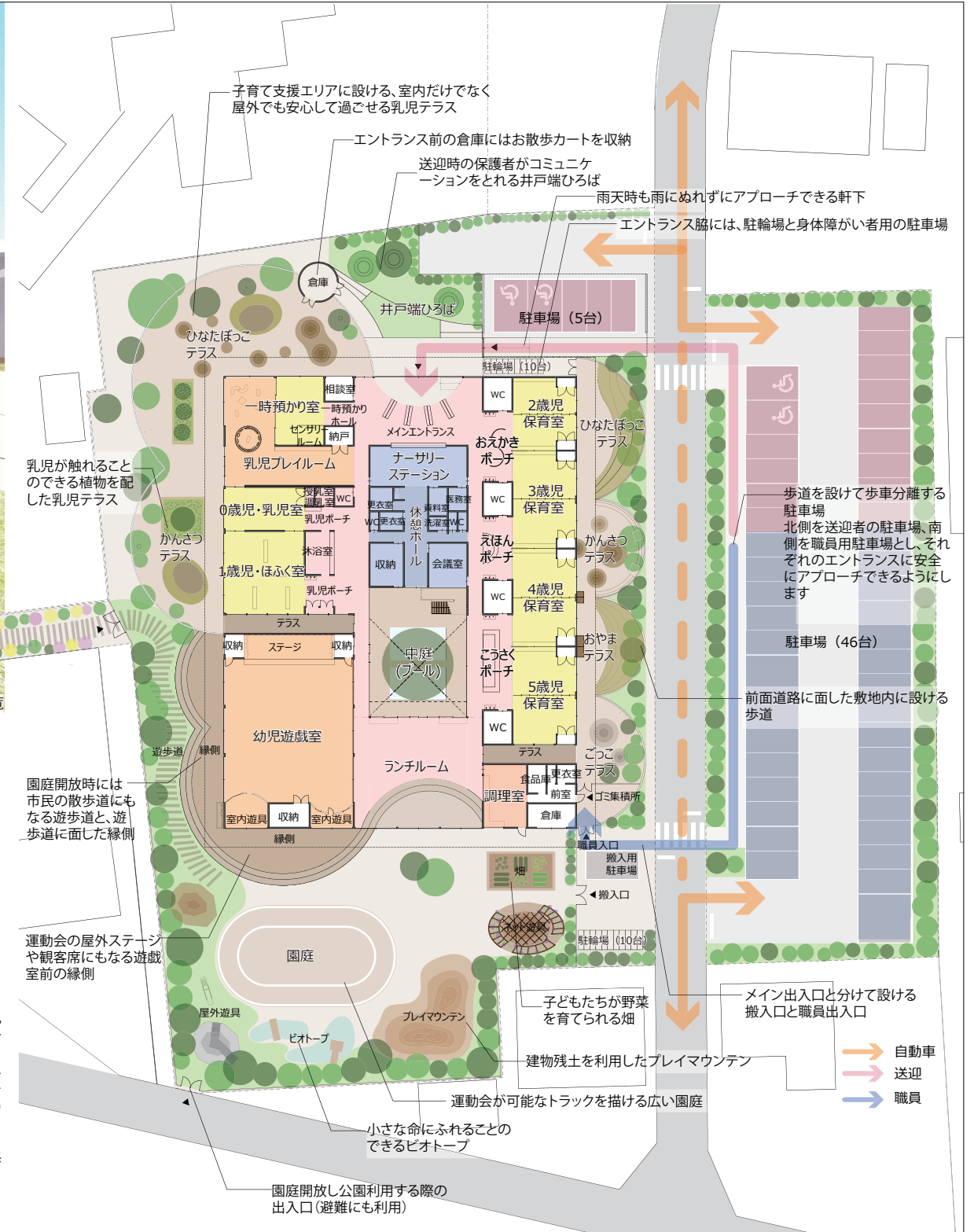
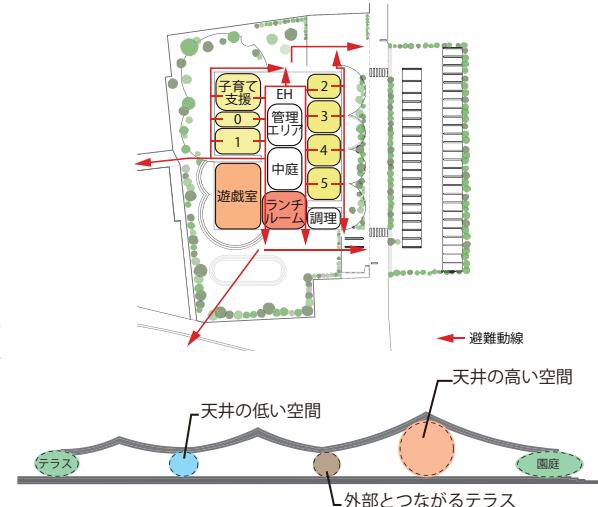


障がい児保育はハード面もバリアフリーに

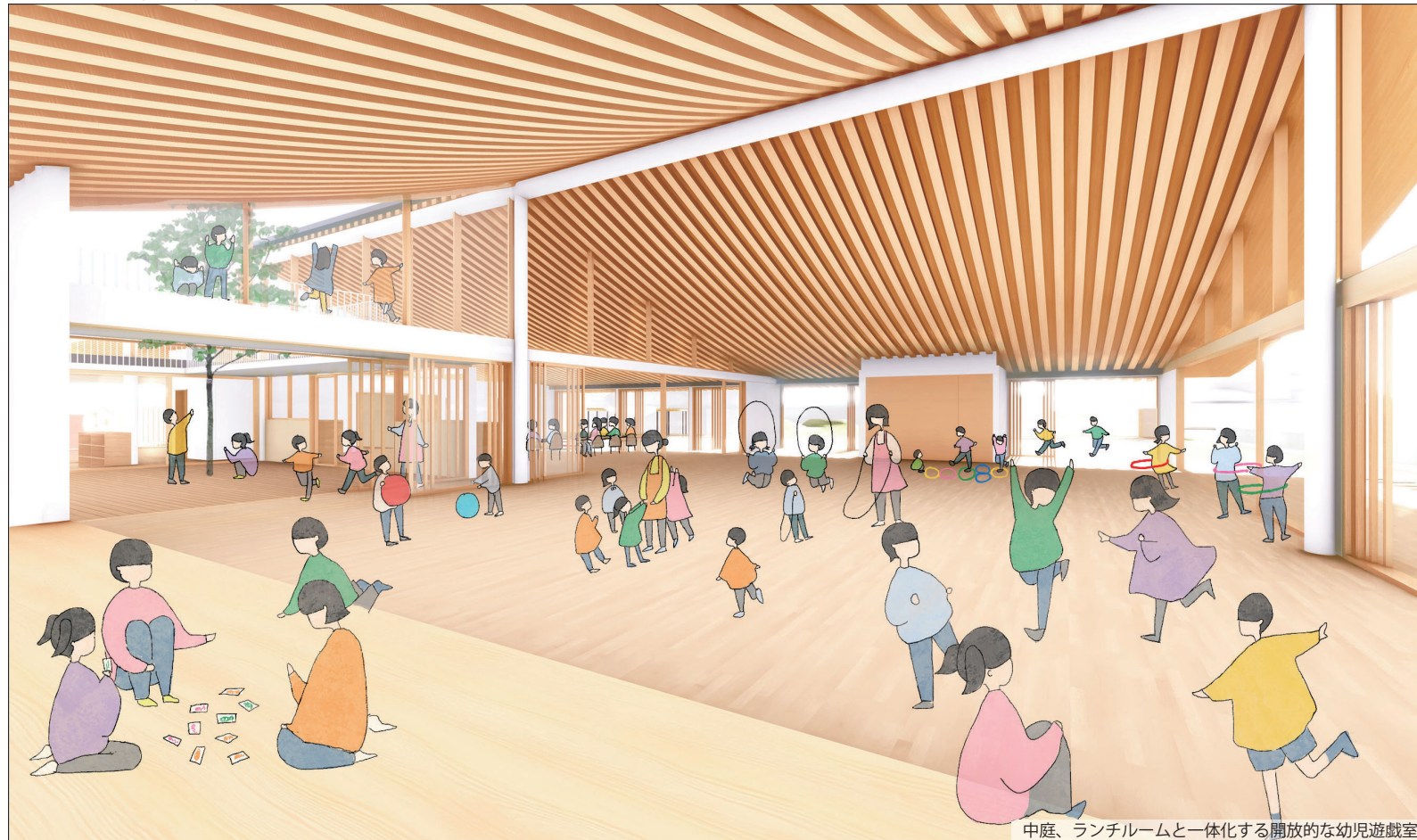
医療的ケア児や車椅子のアクセスが容易になるよう、バリアフリーな平屋建て施設にします。一時保育エリアには、視覚聴覚などに感覚過敏の症状をもつ子どもが、環境に左右されず安心して過ごせる部屋「センサリールーム」を設置します。障がい児・医療的ケア児の積極的な受入れをソフト・ハード両方でサポートします。

懸垂屋根と半円塀による柔らかな空間と外観

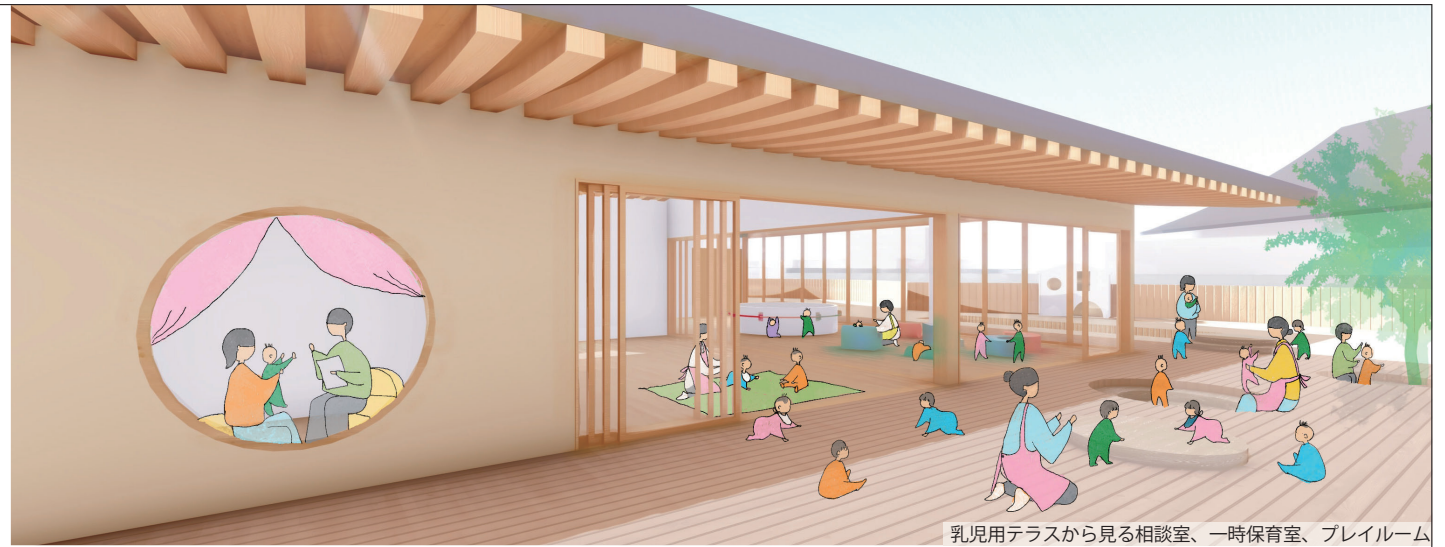
柔らかく子どもの居場所を包み込むよう、布をかけ渡したような懸垂屋根を採用します。園舎を囲む半円形の塀は、子どもの活動が外に飛び出すのを受けとめます。子どもの存在を周辺にポジティブに感じさせる外観を屋根と塀でつくります。



テラスを囲う半円形の塀の柔らかな東側外観



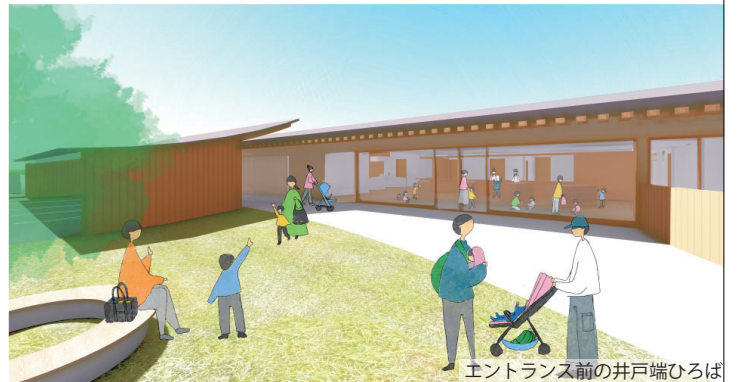
中庭、ランチルームと一体化する開放的な幼児遊戯室



乳児用テラスから見る相談室、一時保育室、プレイルーム



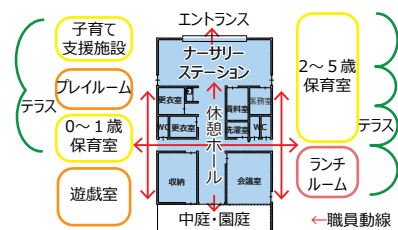
工作をやりかけにできる、こうさくポーチ



エントランス前の井戸端ひろば

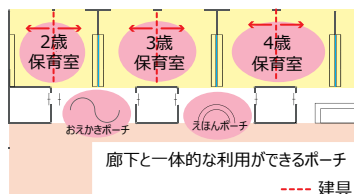
03 ナーサリーステーションを核に子どもを見守りやすく働きやすい職場を整備します

保育士等職員が働きやすい環境整備
適切に開きつつプライバシーを保つ職務空間
年齢や立場の異なる職員が、連携を図り働きやすい施設になるように、職員の拠点「ナーサリーステーション」を玄関前に設けます。子どもや保護者が気軽に立ち寄れる開かれた場所であると同時に、職員の休憩やコミュニケーションが取りやすいように適度に閉じた場所にします。



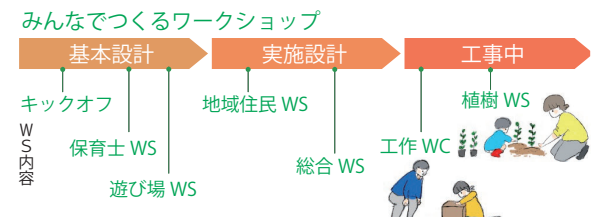
広さを調整できるフレキシブルな保育室

入所する子どもの数や職員数の変動をはじめ、状況の変化に柔軟に対応できるように、整形な平面計画とします。保育室を隔てる建具の位置を変更できるので、部屋の広さを変えられます。



05 将来にわたって地域から愛される施設にする準備をします

地域でつくり愛着をうむワークショップ
ワークショップでは未来の保育所の姿を地域住民、子どもや保護者、保育士、職員と話し合います。家具ワークショップなど施設づくりの機会も設け、将来に渡り、地域や施設に愛着を持ち続けるきっかけをつくりま。

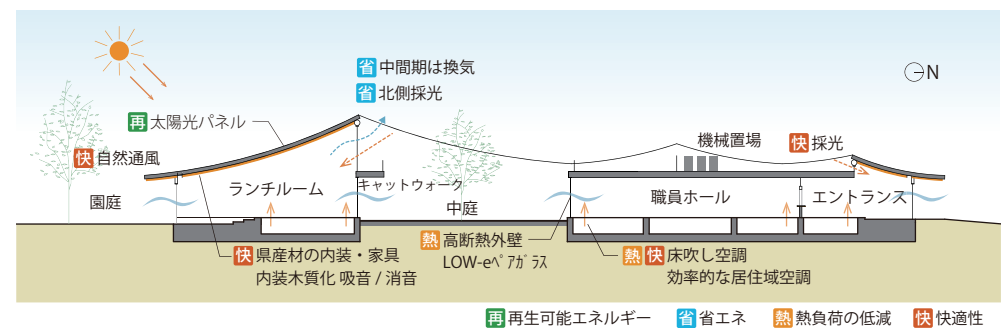


04 サステナブル構法や設備を取り入れ、未来につながる環境づくりを率先します

リーズナブルな配置と構造でコストコントロールしつつ、木質の温かな施設に
効率的な平面計画で延床面積を 1500㎡未満に抑え、準耐火建築とします。不燃材である鉄骨造を主構造、外壁を耐火構造とすれば、内部に現れる構造には耐火被覆が不要に。コスト削減と同時に、屋根の懸垂木梁を現して使えるため、木の温もりを感じる建物にできます。延焼ラインが建物に被らないよう、建物は敷地境界線から3m以上離して配置。防火設備等なしで火災の安全性を確保します。

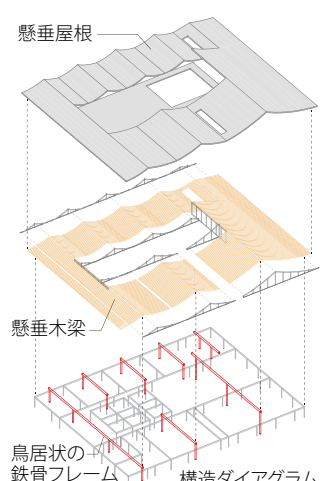
懸垂屋根と開放的な構造を活かした省エネ手法で ZEB 化促進

深い軒や建物周囲への植樹による直射日光のコントロールと、外皮の高断熱化で空調負荷を低減、高効率設備機器を採用し消費エネルギーを低減します。採光、通風等の自然エネルギーを上手に活用し、ZEBへ導きます。



開放的な鉄骨造と優しく包む大きな木の屋根

室内外や部屋同士のつながりが子どものための多様な居場所づくりと保育士の目が行き届きやすい空間をつくる上で重要。開放的な空間をつくれる鉄骨造を主構造とします。鳥居状の鉄骨フレームの間に懸垂木梁を架け渡して屋根をつくり、木質の屋根架構で木の温かみに包まれた空間を実現します。懸垂屋根は少ない材料の経済合理性のある形式でありながら、大スパンで自由なプランを可能にします。木材の利用を促進し、カーボンニュートラルの実現に貢献します。



木育を促す木の内装や家具を採用

木材の利用は屋根架構だけでなく、床や壁などの内外装や、家具にもふんだんに用います。特に内装や家具には地場産材を積極的に利用して、木の温もりだけでなく、自然の経年変化を学び「自然の時間」について考えるきっかけをつくりま。

子ども公共施設に精通した設計チーム体制

子ども園、保育園をはじめとする子ども関連施設や公共施設の協働実績がある設計チームで担当します。社会問題や建築事情に精通し、専門的な知見で最適解を導けるメンバーが構成しています。市民、行政、多様な立場や世代の経験者とプロジェクトチームを組成し、スピーディーかつ柔軟なコミュニケーションの体制を築きます。

スムーズかつ後戻りのない業務工程計画

初期は設計チームと市担当課、関係者で集中的に話し合い、WSを行いながら課題を早期明確化します。精力的に協議を重ね安全性に配慮した遊具の仕様や仕上げや下地、構造・設備の早期検討をし、後戻りのリスクを軽減します。

年度	R5年度					R6年度						
	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11~
市・担当課 打合せ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
設計	基本設計(4ヵ月) ▲契約・キックオフ 与条件の整理 指図書事項反映				●	実施設計(7ヵ月) ▲中間報告 ▲成果物提出 概算提出 成果物整理			●	▲成果物提出 成果物整理 発注支援 工事支援		●
申請	各種条件事前協議				●	各種条件事前協議			●	申請作成 条列等届出		●
WS	プロポーザル案 説明				●	WS			●	WS		●
コスト管理	事例調査				●	配置パターン 概算工事費比較			●	概算工事費算出		●
					●	機器納期の長期化へ対応する 早期検討や代替案検討に			●			●